

## 平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	51人	算数	51人	理科	51人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
------	----	-----	----	-----	----	-----

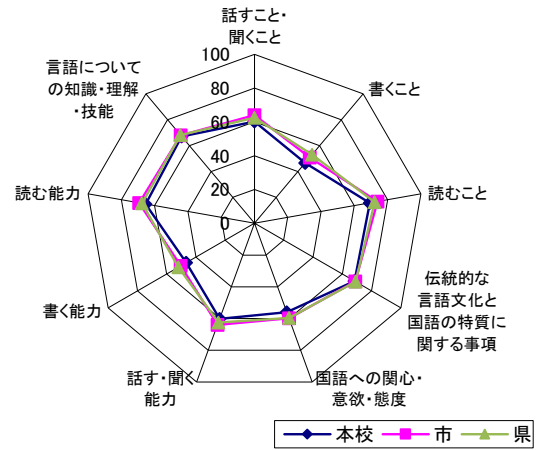
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	60.2	64.0	62.5
	書くこと	46.6	50.9	53.1
	読むこと	69.3	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.0	59.9	59.7
	話す・聞く能力	60.2	64.0	62.5
	書く能力	46.6	50.4	52.0
	読む能力	65.4	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	67.1	67.9	68.2



## ★指導の工夫と改善

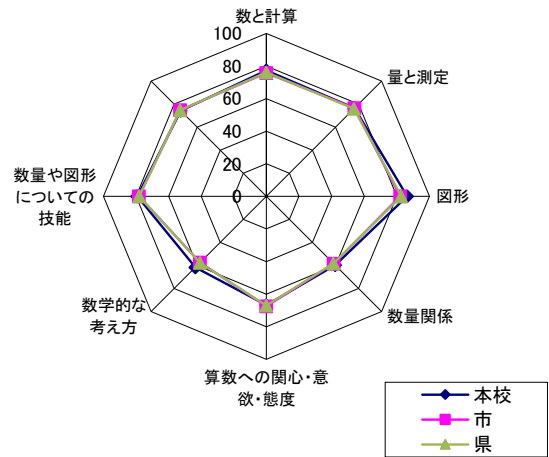
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○「大事なことを落とさないように気を付けて聞き取る」の設問では、県の平均正答率と同程度であった。</p> <p>●「話し方の工夫に注意して聞き取る」の設問では、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。</p> <p>●「話題に沿った意見と理由を考えて話す」の設問では、県の平均正答率を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・話の要点を聞き取るだけでなく、話し方の工夫についてもよさを伝え合う活動を、授業や日常の活動の中に取り入れていく。</p> <p>・話し合いや意見を発表・提案する場を普段の授業や学級活動、朝や帰りの会で多く設けるようにする。</p>
書くこと	<p>○「書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」では、県の平均正答率とほぼ同程度であった。</p> <p>●「指定された長さで文章を書く」については、県の平均正答率を10.8ポイント下回った。</p> <p>●「2段落構成で文章を書く」に関しては、県の平均正答率を7.7ポイント下回った。</p> <p>●「理由や事例を挙げて文章を書く」については、県の平均正答率を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・国語だけでなく、他教科の学習の時間を活用して、自分の意見や考えを、文章にまとめ伝え合う時間を意図的に設ける。</p> <p>・文章を書く活動の中で理由や事例を挙げて相手に伝わりやすい工夫を行うことを習慣づける。</p> <p>・日記を取り入れ、その中でその日1日の出来事に対する自分の考えや意見を書くよう支援する。</p>
読むこと	<p>○「登場人物の気持ちを読み取る」では、県の平均正答率を3ポイント上回った。</p> <p>○「説明文の読み取り」については、県の平均正答率と同程度であった。</p> <p>●「場面の様子を読み取る」では、6.3ポイント県の平均正答率を下回った。</p> <p>●「目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取る」については、県の平均正答率を6.9ポイント下回った。</p> <p>●「段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る」では、県の平均正答率を8.2ポイント下回った。</p>	<p>・日頃から本に親しみ読書への関心を高められるよう、図書室利用の奨励や朝の読書タイムの活用を図る。</p> <p>・物語文の中では登場人物の言動や情景描写にも着目し、想像豊かに読むことができるように、文学教材の読解の指導を進める。</p> <p>・説明文の段落ごとの読み取りだけでなく、作者の意図や構成についても押さえるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○「第3学年配当漢字を読む」「第3学年配当漢字を書く」ともに県の平均正答率と同程度であった。</p> <p>○「文の構成(主語と述語)についての理解」では、県の平均正答率を38.1ポイント上回った。</p> <p>●「ローマ字のつづりの理解」については、県の平均正答率を17.9ポイント下回った。</p> <p>○「国語辞典の使い方の理解」では、県の平均正答率と同程度であった。</p>	<p>・漢字練習プリントを作成し、繰り返し練習を行ったり、小テストの時間を確保したり、苦手な漢字を取り上げて指導したりすることで、漢字の定着を図る。</p> <p>・普段から文章の中で既習漢字を使うように、指導していく。</p> <p>・教科書だけでなくパソコンを操作する活動でもローマ字入力を取り入れ、ローマ字に親しんでいくようにする。</p>

# 宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.3	75.8	76.1
	量と測定	76.5	76.5	76.0
	図形	86.3	82.1	82.7
	数量関係	59.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	66.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	61.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	79.2	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	74.4	74.8	74.9



## ★指導の工夫と改善

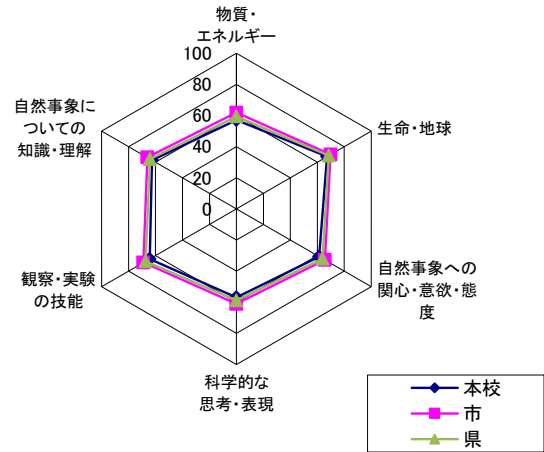
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○かけ算(2けた×2けた)の計算問題では、平均正答率が78.4%で県よりも8.5ポイント上回った。 ●わり算(2けた÷1けた)余りありの計算問題では、平均正答率80.4%で県よりも6.1ポイント下回った。 数の相対的な大きさについて問われる問題では、平均正答率47.1%で県よりも5.1ポイント下回った。	・わり算の復習を朝の学習等でしっかりと行い定着を図る。 ・計算練習についてはプリント等を使い日々反復を繰り返していく。
量と測定	○はかりに示された目盛りの読み取り問題では、平均正答率86.3%で県よりも7.9ポイント上回った。 ●地図から2つの道のりを読み取り、道のりの大小の表し方を問う問題では平均正答率が64.7%で県よりも4.5ポイント下回った。	・目盛りの読み取りや地図からの距離の算出については、算数だけでなく理科や社会の時間にも指導をしていく。
図形	○球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題では、平均正答率が78.4%で県よりも6.9ポイント上回った。	・図形の問題については、さらに復習を行い自信を持てるようにしていく。 ・更なる応用問題についても取り組ませ、解決への糸口を見出した時や解決できた時の喜びを味わわせることにより算数への興味・関心が高まるようにする。
数量関係	○棒グラフの読み取り問題では、平均正答率が72.5%で県よりも3.7ポイントを上回った。 ●棒グラフの目盛りの大きさ、最大値に着目して、棒グラフを書くことが出来ない理由の説明問題では、平均正答率が19.6%で県よりも2ポイント下回った。	・棒グラフから情報を読み取ったりする中で、目盛りの大きさの工夫などについて考えさせ、グラフの目盛りの大切さについて気付かせる。 ・普段から算数の学習の中で気付いたことを文章で表現する時間を設ける。

# 宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.1	61.9	59.4
	生命・地球	67.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.4	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	56.9	61.0	58.8
	観察・実験の技能	64.3	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	62.6	66.1	64.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「風やゴムのはたらき」では、3.4ポイント県平均を上回った。</p> <p>●「光のせいしつ」では6ポイント県平均を下回った。光の進み方や集まった光の明るさなど、知識を問う問題の正答率が低かった。</p> <p>●「物の重さ」では6ポイント県平均を下回った。物体の正体を推測するような思考する問題の正答率が低かった。絵や表など複数の資料から情報を読み取り、考えることが難しかった。</p>	<p>・光の性質を理解するために、一人一人が鏡を使った反射実験に確実に取り組み、その結果を学級全体で共有するようにさせる。</p> <p>・物の重さについて学習する際には、物体の性質を理解させたうえで、それぞれを比較させるような学習活動を取り入れ、複数の性質を関連させて考えさせる。</p>
生命・地球	<p>○「植物の育ち方」では1.2ポイント県平均を上回った。</p> <p>○「こん虫の育ち方」では0.8ポイント県平均を上回った。</p>	<p>・本校の自然環境を生かし、動植物と実際にふれ合ったり、観察したりする活動を引き続き充実させる。</p>

## 宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答は、県・市平均より約15ポイントも高い。本校では、宿題のほかに、個人の課題や興味・関心に応じて自主学習に取り組むことを奨励している。学校での指導が一人一人に浸透してきた結果であると考えられる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」、「自分は勉強がよくできる方だと思う」、「自分にはよいところがあると思う」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「自分も持っている能力を十分に発ぎしたい」の肯定回答率は、いずれも県・市平均より5～6ポイント高い。児童の自己肯定感を高め、学習や生活に前向きに取り組めるように、今後も、ほめて伸ばす指導を続けたい。

○「毎日朝食を食べている」との回答が県・市平均を大きく上回り、基本的な生活習慣を大切にすしかりとした家庭環境であることが分かる。「家の人と学校のできごとについて話をしている」についても肯定回答率が高いことから、家族との会話によるコミュニケーションが図られ、毎日安心して生活している様子がよく分かる。

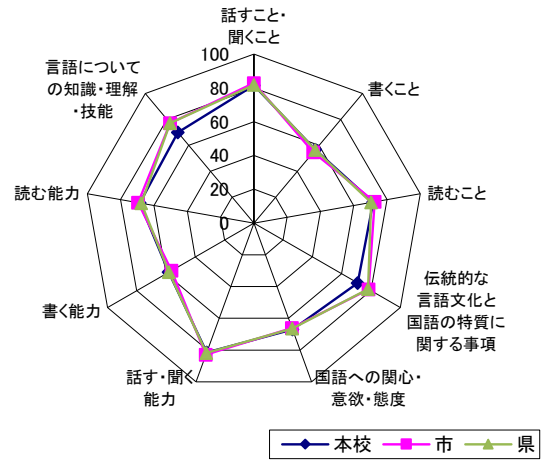
●平日の授業以外の学習時間についての設問では、「30分より少ない」と回答した児童の割合が約30%であり、県・市平均よりかなり多い。また、「時間を上手に使うことを心がけている」の肯定回答率は、県・市平均より15ポイント以上低かった。高学年になると学習内容が難しくなるので、今後は時間を上手に使って家庭での学習時間をもう少し増やせるように指導していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と感じている児童が7割以上で、文章表現を苦手としていることが分かる。「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょう戦している」の肯定回答率も県・市平均より低いので、授業中に自分の考えを文章で表す機会を増やし、苦手克服に向けて取り組めるような指導を工夫したい。

# 宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.5	82.9	81.8
	書くこと	56.7	54.8	56.5
	読むこと	71.7	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.9	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	67.0	66.0	66.4
	話す・聞く能力	81.5	82.9	81.8
	書く能力	58.1	56.3	57.9
	読む能力	68.5	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.0	77.2	77.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

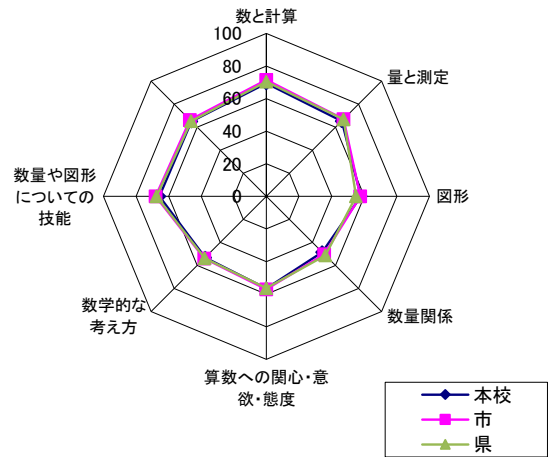
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気を付けて聞き取る」の設問では、県の平均正答率を2.8ポイント上回った。 ●「話し方の工夫に注意して聞き取る」の設問では、県の平均正答率を3.8ポイント下回った。	・話の要点を聞き取るだけでなく、話し方の工夫についてもよさを伝え合う活動を、授業や日常の活動の中に取り入れていく。
書くこと	○「意見をもとにポスターの文を書く」(選択)については、県の平均正答率を7.3ポイント上回った。 ●「情報を適切に読み取り、ポスターの文を書く」(記述)に関しては、県の平均正答率を9.4ポイント下回っており、資料から必要な部分を選び表現するところに課題が見られた。	・国語だけでなく、他教科の学習の時間を活用して、資料を正しく読み取るためのポイントを示した上で、読み取ったことを伝え合う時間を確保したり、文章に対する自分なりの意見を説明したり書いたりする機会を意図的に設ける。
読むこと	○説明文の「内容的確かな読み取り」については、県の平均正答率を約9ポイント上回った。 ●物語「目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取ること」に関しては、県の平均正答率を5.8ポイント下回っている。	・説明文の段落ごとの読み取りだけでなく、構成についても押さえる。 ・日頃から本に親しみ読書への関心を高められるよう、図書室利用の奨励や朝の読書タイムの活用を図る。また、登場人物の言動や情景描写にも着目し、想像豊かに読むことができるように、文学教材の読解の指導を進める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字辞典の使い方」についての設問では、県の平均正答率を9ポイント上回っており、漢字辞典を教室近くに置き、活用できるようにしたことの成果が表れた。 ●「第4学年配当漢字を読むこと」(4問中2問)、漢字を書くことは、県の平均正答率を10~20ポイント程度下回っており、配当漢字の読み書きに課題が見られた。	・漢字の小テストや漢字練習の時間を確保したり、苦手な漢字を取り上げて指導したりすることで、漢字の定着を図る。普段から既習漢字を使うように、声掛けをしていく。



# 宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.4	71.5	70.4
	量と測定	65.3	67.0	66.9
	図形	57.9	57.6	55.0
	数量関係	48.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	56.5	57.0	56.3
	数学的な考え方	53.2	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	65.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.0	66.3	65.4



## ★指導の工夫と改善

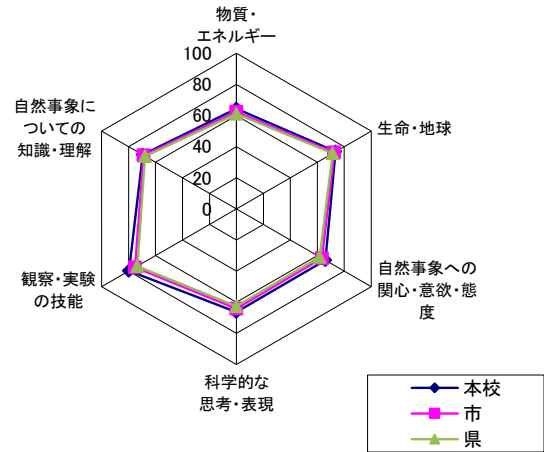
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○図を使い、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶ問題では、平均正答率が85.5%で、県より14.5ポイント上回った。</p> <p>●小数第一位×整数の計算問題では、平均正答率が71%で、県より10.5ポイント下回った。</p>	<p>・小数×整数は、整数×整数に置き換えたあと、1/10するという考えを十分に理解できるようにし、定着を図れるようにする。</p>
量と測定	<p>○分度器の中に示された、角の大きさの目盛りの読み取り方の理解では、平均正答率が71%で、県より4.3ポイント上回った。</p> <p>●5等分した長方形の1つの辺の長さを求める問題では、平均正答率が51.6%で、県より6.9ポイント下回った。</p>	<p>・1つの図形を等しい面積で、変則的に配置した際の図形の1辺の長さを求めるような、活用型の問題に慣れることができるようにする。</p>
図形	<p>○四角形の対角線の性質についての問題では、平均正答率が71%で、県より11.2ポイント上回った。</p> <p>●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題では、平均正答率が12.1%で、県より3.3ポイント下回った。</p>	<p>・情報を正確に読み取ったり、「きより」や「道のり」という用語の意味を理解したり、平行四辺形の特徴を理解したりという基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。そのことに加え、生活場面に合った問題を解決する機会を増やし、基本的な力を活用できるようにする。</p>
数量関係	<p>○折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、平均正答率が27.4%で、県より8.6ポイント上回った。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、平均正答率が19.4%で、県より17.3ポイント下回った。</p>	<p>・□+2=○のように1つの数字が変わると答えも変わるという比例につながる規則性についての理解を、違った数字を当てはめてもできることを考える場を設け、理解の定着を図れるようにする。</p>

# 宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.4	62.4	61.1
	生命・地球	73.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.0	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	66.3	64.1	62.6
	観察・実験の技能	79.7	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	69.4	68.8	67.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○正答率が県平均を3.3ポイント上回っている。</p> <p>○「ものの体積と力」では、知識及び思考力を問う問題において正答率が82%以上であり、県平均を上回っている。</p> <p>●「空気のあたたまり方」「電気のはたらき」についての理解を問う問題では正答率が県平均を5ポイント以上下回っていた。特に、「電気の流れを何というか」の問いの正答率は18ポイント下回っていた。</p>	<p>・実物を見たり触れたりしながら学習できない単元においては正答率が低くなっている傾向がある。このことから、実物を示せないものはイメージ図を活用するなど可視化に努め、児童が視覚的かつ構造的に学習内容を理解できるよう指導を工夫する。</p>
生命・地球	<p>○正答率が県平均を2.1ポイント上回っている。</p> <p>○「月と星」「自然の中の水」では、知識を問う問題において正答率が県平均を10ポイント以上、上回っている。</p> <p>○「自然の中の水」では、思考力を問う問題において正答率が県平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>●「1年間の動物の様子」についての理解を問う問題では正答率が県平均を5ポイント以上下回っていた。特に、「動物の体のはたらきと運動」のウサギの背骨の特徴について考える問題の正答率は7.5ポイント下回っていた。</p>	<p>・知識を問う問題の正答率が低い単元において、思考力を問う問題の正答率も低くなっている傾向がある。このことから、知識と思考の連結を意識し、既習した知識を活用して予想を立てたり考察したりする活動を取り入れた授業展開になるよう改善する。</p>



## 宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「辞書を使って調べている」、「国語では考えの理由が分かるように書いている」、「算数では問題の解き方や理由が分かるようにノートに書いている」など、肯定的回答が県・市の平均を上回り、各教科の「好き嫌い・学習内容がよくわかるか」を問う設問でも平均を上回っている。「家庭における予習」、「復習」、「宿題以外の自主学習」についての肯定的回答が県や市の平均を上回ったり、「間違えた問題のやり直しを行う」児童の割合が平均を上回っている。また、「宿題はやりたくない内容だ」、「自分のためになっている」、「勉強がおもしろい・楽しい」、「分かるまで調べたい」という肯定的回答も平均を上回るなど、本校の児童が家庭においても自主的・意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。

○「自分の能力を十分発揮したい」と考える児童や「毎日の生活に充実感をもつ」児童はいずれも高い割合で、県・市の平均も上回っている。「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」と肯定的な回答も県・市の平均を上回り、社会的な実践力を問う設問についての肯定的回答率はいずれも高い。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」という肯定的回答は県・市平均を20ポイント以上上回っている。多くの児童は「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」と感じており、「学級内は発言しやすい雰囲気」で、「グループ等の話し合いも活発」な上、「他者との意見の交流により自分の考えが深まったり広がったりした」ことを実感していることが分かる。授業では「目標が明確に示され」、「ノートを書く際にも目標やめあてを明記している」と肯定的に回答した児童の割合は高い。

○「話し合ってクラスのきまりなどを決めている」、「学校の決まりを守っている」、「係の仕事に責任をもって取り組んでいる」などの肯定的回答が県・市平均を大きく上回り、学業指導が行き届いた結果、「クラスの人の役に立っていると思う」、「自分には、よいところがあると思う」、「自分の行動や発言に自信をもっている」という自己肯定感も高いことが分かる。

○家庭での家族との会話に関する項目では、肯定的に回答する児童の割合が概ね県・市の平均を上回っている。家族との会話によるコミュニケーションがしっかりと図られている様子が分かる。

●「毎日朝食を食べている」、「早寝早起きを心がけている」などの肯定的回答が県・市平均を大きく上回り、規則正しい生活習慣が身についていることが分かる一方、平日のテレビやビデオを3時間以上視聴している児童が3割、ゲームを3時間以上している児童が1割いる。携帯電話やスマートフォン等を4時間以上使用している児童も多い。

●平日・休日の学習時間は、本校で学年の目標としている「1時間」を基準にすると、県平均を10ポイント以上下回っている。1時間以上学習に取り組んでいる児童が半数近くいるが、下回る児童も半数以上おり、二極化している。

●「読書時間が1日10分以下」、「月に5冊以上読む」と回答した児童がそれぞれ約4割、「新聞をほとんど、または全く読まない」と回答した児童が9割以上であり、県・市平均を下回っている。「月に1冊も本を読まない」と回答した児童も約1割いる。学級全体で学校図書館に行く頻度を増やしたり、テレビやゲームに使っている時間を読書に当てられるよう家庭への啓発を行ったりしながら、読書時間・読書量の確保を意識させていきたい。

## 宇都宮市立国本中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての提示と振り返りの場の設定</li> <li>・対話的な学びによる知識の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての提示により学習への意欲を喚起し、見通しをもてるようにする。また、めあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学びのよさに気付けるようにする。</li> <li>・少人数グループでの話し合いの場を設け、多面的・多角的なものの見方に気付けるようにし、思考を働かせたうえでの理解を促すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されている」という質問の5年生の肯定回答率は、県平均を上回ったが、4年生は27.4ポイント下回っていた。「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問での肯定回答率は、4、5年生共に県平均を大きく上回っていた。</li> <li>・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問の肯定回答率は、4、5年生共に県平均を上回っていた。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取り</li> <li>・読解力</li> <li>・目に見えないものやことがらを思考すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の学習に意欲をもたせる工夫</li> <li>・読解力を伸ばすための指導の工夫</li> <li>・活用型学習の場を設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定を行い、意欲的に漢字の学習に取り組めるようにする。</li> <li>・指示語を確認し、指示語に対応する文章がどれなのかを確認する</li> <li>・読書活動を推進する。</li> <li>・実践的・体験的な活動を取り入れ、知識や技能の定着を図り、身に付いた力を活用できる問題に触れるようにする。</li> </ul>